



13
2132
2

東京大学図書印





夫蓋色者志按之保微與謂諺
 實哉考遠異國於夏桀有
 戲殷紂有置掌氣夢相次而周
 幽唐玄之有邊羅望復倭朝平
 城後鳥羽二帝是皆傾城傾國
 之不覺真偽而得馬鹿之俗况
 下下之於四民于哉豈可不懼
 矣故先聖禁魚自女色大平婦

2132
 2

2



七

70

遊婦共深破魔留則者寧受是
 等浮名雖然誇今世太平之果
 四隅于有遊廓而貴賤重代賤
 寶家國於墮落彼一穴于號是
 於謂百百之太魂歟因茲當世
 戲婦風俗高下之大概記号而
 謂婦羨車紫齋與于時安永三
 甲午孟春 浮世偏盛齊道即苦先生述



婦更車序

抱女の愛者

生妻市れ出會

九蓮ふ定

る梅子奈倉の辰

ふ川青系也

辰中の口台

志はくわのく

以上

附り神のあん記

直取付の
細見まがら

平家

新吉原

いづれか古風なせうきあつたうらな
かき舞の風をまわればかへるむすの風
舞のめづりしむ町廓の内ふら若つたの
あつたうらな

千三ノ二分

白拍子

馬道

いづれかおもしろきうらな
地盤はふたつあつたあつたのびはし
あつたうらな

上野中生まぬ

いづれかおもしろきうらな

十かき
七百文

平家

品川驛

江戸四驛
之隨一

いづれかおもしろきうらな
あつたうらな

千三ノ二分

白拍子

目

いづれかおもしろきうらな
あつたうらな

白拍子
四阿院前
但云云云

此浄土今々髪衣裳乃とこあつて月あつた
ふむさうにふれ世に世に世に世に云

上品下生之節

此節は仲阿ふくまう
白拍子

白拍子
深川仲阿

浄土今々髪衣裳乃とこあつて月あつた
ふむさうにふれ世に世に世に世に云

右同節

浄土今々髪衣裳乃とこあつて月あつた
ふむさうにふれ世に世に世に世に云

白拍子
土橋

浄土今々髪衣裳乃とこあつて月あつた
ふむさうにふれ世に世に世に世に云

白拍子
赤城

浄土今々髪衣裳乃とこあつて月あつた
ふむさうにふれ世に世に世に世に云

白拍子
麻布水川

浄土今々髪衣裳乃とこあつて月あつた
ふむさうにふれ世に世に世に世に云

如流車

中お上生々於けは海津津表表なるなる

益夜四切
七拍子
白拍子
深川表槽

け津土表の風衣表表とほとほ大大の身
仲町と表表のちちああくく人人めめゆゆららのの者者のの
とほとほ又又のの仲町仲町おおおおれれト

右白拍子
同裏槽

け津去大い表表中中づづののどどーーととの
おおささううななららははりり

右白拍子
同裾細

け津去表表中中づづののどどーーととの

於七拍子
平家
四谷新宿
江戸四釋
片三

け津去のやうく今春今春ああららははりり
ああららははりりのの田田ああららははりりのの深川深川ああららははりり
とらとら入入込込ららままごご風風俗俗ささららままごごすす大
ていていああららははりりととままああららははりりととままああららははりり

益夜四切
七拍子
白拍子
芝罘地内

け津去の風衣表表とほとほ大大の身
ああららははりりととままああららははりりととままああららははりり
古古ととままああららははりりととままああららははりり

南品驛

平家
南品驛

いほまの髪かみのあつた髪かみをうらなひしつらふに
宿しゆく新しん宿しゆくとよふ似にたりはましきりふまふ
あんと見みえとれまはつらひ遠とほくは住すま持もちめふ
いさゝか青あお印いんのさし次つぎあり

益夜四切り
一切七ふ下
白拍子
牛込行願寺

は津去つの太おほくさああ体たいふああぬ髪かみのあつ
かま中ちゆうの住すま持もちめふとてさしきり
はしつかぬ

中亦中生之記

けり八幡東保川佃ふわり
は水上野山下ふわり

益夜四切り
引はり
巻頭白拍子
深川佃

け津去つの太おほくさああぬ髪かみのあつ
乃のああかかのああつつたためめ人ひとががいいふふああいい

あつた
白拍子
同新大橋

け津去つの太おほくさああぬ髪かみのあつ
はしつかぬ
かま中ちゆうの住すま持もちめふとてさしきり

御成書

右月形
白拍子

深川新地

い浄土八個お抽どと皆浄と他お友の結ぶ
とくはあまのうけあひまのけれあはれうま

金後四郎
白拍子

深川石置場

い浄土六つお新地お抽どとらあま
お友あまのうけあひ

右月形
白拍子

八幡新地

い浄土石置場お抽どと人かう同あ

右月形

い浄土お抽どとあまのうけあひ

白拍子
築立新地

新地お抽どとあまのうけあひ

金後四郎
一切六下

南多谷八幡

い浄土あまのうけあひお抽どと
お友あまのうけあひ

右月形

白拍子

三田同朋町

い浄土あまのうけあひお抽どと
お友あまのうけあひ
あまのうけあひ
あまのうけあひ

御成書

右門外
白拍子
大根畠

け浄去いあうの下のあうを夏あうのあう
ここの田ふれう人かんのあうあう作らうあ
いあう見えあうあうむんかうあう

千三ノ間下

白拍子

浅草柳下

け浄去いきこらうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあうあうあう

千三ノ間

三下

白拍子

上野下

巻軸

け浄去いあうあうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

中あう下生之歌

け浄去いあうあうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

卷

五十六下
夜四下

平家

三三間堂

け降ふの何ふあしづきうしんこのうらま
あこあーおるぶをうんちりふさうさ
あふんうらとあしけ如去八月中れ
あゆむ波濤とさうぶんはあり

四六

平家

音羽町

け降ふおま乃ふく夜裳大ふこのあ
あ敷す人うら下むんこまのうらうら
あふん今れた風録屋りられあふのも
かや中じりマサドヤうらうらあり

四六

平家

深川倉

け降ふ大ふのえ向きれかうらうら
さうかんだん降ぬく他と安んをふ
あふん二るあうらうらあふ

平家

市原

け降ふ大かいあぬあ敷す今ふあふら
あふん大ふのあ敷すあふあ

平家

赤坂田町

け降ふ大ふのあ敷すあふあ
あふん大ふのあ敷すあふあ

三田新地

三

右白の
手家

谷中いり

右白の
手家
麻布敷下

右白の

手家
板橋驛

江前四郎の舟田

四六

け浄土衣袋を長衣袋とせよりかうー但ぞん

あつとよぶぬいふか安ー

け浄土之田新地お新す和おちかあー

け浄土衣袋乃少く衣袋今もあつと

生知く但し衣袋の三つあつて一回合めい

かうと有せぬさう浄土衣袋

け浄土衣袋衣袋何色か小件おー

手家
浅草衣店

四六
手家
世尊法師前

四六
手家
根津

新下り敷と人がうけせん

け浄土衣袋いふお新あかりかえ浄土

け浄土衣袋衣袋長衣袋とせよりかうー

人か衣袋下おは浄土衣袋下おあー

四六
手家

千住驛

以府四郎の舟田
軸

け浄土衣袋衣袋長衣袋とせよりかうー

とまぬいふか安ー

かうと有せぬさう浄土衣袋

三

三

下島上生々抄

けしんは島の朝鮮名都の
好くは地の赤坂おたう

平家
朝鮮長屋

けしんは島の朝鮮名都の
好くは地の赤坂おたう

平家
音相裏剛

けしんは島の朝鮮名都の
好くは地の赤坂おたう

平家
呂川三丁目

けしんは島の朝鮮名都の
好くは地の赤坂おたう

平家
万福寺前

けしんは島の朝鮮名都の
好くは地の赤坂おたう

平家
本郷大根島
千坪

けしんは島の朝鮮名都の
好くは地の赤坂おたう

平家
大橋大根島

けしんは島の朝鮮名都の
好くは地の赤坂おたう

平家
麻布市東町

けしんは島の朝鮮名都の
好くは地の赤坂おたう

如天車

五

右口り
平家
赤坂田町

け浄土製はなまきりふふ六つんづつさうざん
但し多分おとろてりハル

下中生々部

け新江東の安宅ル路り
江東の鯉がとりにおとろ

手之半
平家
安宅屋

け浄土大いふ六間地とさうぬが但し
さうまうくつ次之ヨラさうり川ハラス

ちりり
毛家
直助長屋

け浄土大いふわりけざうあハハラス

右口り

け浄土製のかうらまう人くもあ

手家
麻布敷下

淋かかハハハル

手之半
手家
濱州茶店

け浄土製はなまきりふふ六つんづつさうざん
か次ぬくうまもおとろ

右口り
平家
木々丸山

け浄土製はなまきりふふ六つんづつさうざん
おとろけりおとろおとろ

右口り
手家
三田同明軒

け浄土製はなまきりふふ六つんづつさうざん
け浄土製はなまきりふふ六つんづつさうざん

金平さかやう

めいしん

右門外
手家
三田新地

はなまむらさきをきくはなぬふゆり
川ハラス

粘り
手家
浅草堂

はなまむらさきをきくはなぬふゆり
川ハラス

手家
手家
深田打場

はなまむらさきをきくはなぬふゆり
川ハラス

手家
手家
高橋荷

はなまむらさきをきくはなぬふゆり
川ハラス

右門外
手家
中谷敷橋

はなまむらさきをきくはなぬふゆり
川ハラス

下取下はきり部

はなまむらさきをきくはなぬふゆり
川ハラス

おき

手之向半
平家
市谷の谷

此は浄土の地なり人々教へし小川の
川に石を敷くも
此は浄土の地なり人々教へし小川の
川に石を敷くも
浄土の地なり人々教へし小川の
川に石を敷くも

右田
平家
伊豆の湯

浄土の地なり人々教へし小川の
川に石を敷くも
浄土の地なり人々教へし小川の
川に石を敷くも

右田
平家
本所入江
外四六アリ

手之向半
平家
土田

浄土の地なり人々教へし小川の
川に石を敷くも
浄土の地なり人々教へし小川の
川に石を敷くも

右田
平家
吉野

おき

音羽丸坂

世常流家

赤川鈴森

香三平
三上三平
井野堀

い浄去さう人浄取一去島竹不取す川公

い浄去丸坂ふらう丸川るまむ

い浄去去及ふやうくむやうぶ一
去うと浄か一但前坂とるち

い浄去髪の少く最高最高最高一介
大い大つ一のどくさうく人連音成
ハ少一病志おわ一但こ形おくこの
形もむいの形成ぐ一るの風の音

い久持まいの代傳の下へさとさる
いらい三人ハて形為るが入りづる世人
是と名づけて形ニムウトヨフ

類
拔

新舊袂

い浄去乃風俗はあつた中とつた
衣着ハ子乃とくく中かちら伝承ハ
モウレモウとくくとくさうあり

新舊

七

トシニテ
コロリ
三鴻窟

い浄云臥大格の執人ぐを執りて
ほご之世俗に路とマルタとありて
け西大格にぞう之神田大寺田所を
くわてふ御船をようりつら

或人問曰け執後白拍子ありや若女ありや
て白是白拍子也長き拍子と長き拍子と
大故入道妓王妓とて白拍子と長き拍子と
け頂新尔とありて白拍子ありて長き拍子と

妓女と云ふはせうりて白拍子といふは
ちよあま世とて長き拍子と長き拍子と
とありて長き拍子とありて白拍子とありて
か分れんはもかたは白拍子とありて
るは長き拍子とありて白拍子とありて
んあまあり

女帝買道具

衣裳

大工の造りたき衣類のせぬ中へ
心肌をいれおとらむ白ひき
まう細い糸で入る中へ
わ

髪

髪をまうせんかきおぼし
田へり吉月代とらなとむ
はさる

髪

髪をまうせんかきおぼし
田へり吉月代とらなとむ
はさる

髪

髪をまうせんかきおぼし
田へり吉月代とらなとむ
はさる

袴

袴をまうせんかきおぼし
田へり吉月代とらなとむ
はさる

袴

袴をまうせんかきおぼし
田へり吉月代とらなとむ
はさる

その女希のゆへに女希もあつた
 あつたゆへに女希もあつた
 あつたゆへに女希もあつた
 あつたゆへに女希もあつた
 あつたゆへに女希もあつた

お

但お茶屋の女希もあつた
 女希もあつたゆへに女希もあつた
 女希もあつたゆへに女希もあつた
 女希もあつたゆへに女希もあつた
 女希もあつたゆへに女希もあつた

女希もあつたゆへに女希もあつた
 女希もあつたゆへに女希もあつた
 女希もあつたゆへに女希もあつた
 女希もあつたゆへに女希もあつた
 女希もあつたゆへに女希もあつた

女希もあつたゆへに女希もあつた
 女希もあつたゆへに女希もあつた
 女希もあつたゆへに女希もあつた
 女希もあつたゆへに女希もあつた
 女希もあつたゆへに女希もあつた

くうけいありあすの

九蓮品定大尾

[薬] ハアテ こそ色ハ面志修くそしんを新よめや

ふふあんふいの者あやの事家をもさうす

ぢふしと **[信]** さあをささこもたはしくさん

ちかがあるカバと修くしら修むりしゆめ

あはおまやせせを修くぢうすのぢい

あちづら信の十波はさしまじり

肌あふんくおのちあ修めくそん

まやとちとおたの方ありあおまどり

あつあつとくくきさく我ん色は修

修中町五位者ありえんおき肉修

あへ文字此席あはははじう間とらふ

あふらふと菊里の香ははるもあふら

あふらふとやまの山とらふお狐あを

あふらふと被さくし原のあふたがひ

あふらふとあふらふとあふらふと

あふらふ

あふらふ

あはれ分入元係れ奴とあり又このつらき世に
とありはらとてあはれなるれ師の念に迷ひしも
あはれあり信を今望付申始極くこの世の早と
わさあんとてゆしし新むひ解くけ世はつらとて
の二念あましくも也欲東あましくも
ふふと一掃ありしつらとて人をあましくも
昔は昔の言早あましくも井の物むらたあましくも
経あましくも世の世も経す初たはしつらとて蓮平定
つらとて経すつらとて世の世も経す初たはしつらとて

つらとて経すつらとて世の世も経す初たはしつらとて
つらとて経すつらとて世の世も経す初たはしつらとて
つらとて経すつらとて世の世も経す初たはしつらとて
つらとて経すつらとて世の世も経す初たはしつらとて
つらとて経すつらとて世の世も経す初たはしつらとて
つらとて経すつらとて世の世も経す初たはしつらとて
つらとて経すつらとて世の世も経す初たはしつらとて
つらとて経すつらとて世の世も経す初たはしつらとて
つらとて経すつらとて世の世も経す初たはしつらとて
つらとて経すつらとて世の世も経す初たはしつらとて

110

111

後継ぎの女 コノメ 子孫の繁栄を願ふ

めでたき御成程 サキアツキ 御用事

御成程 サキアツキ 御用事

御成程 サキアツキ 御用事

御成程 サキアツキ 御用事

御成程 サキアツキ 御用事

御成程 サキアツキ 御用事

御成程 サキアツキ 御用事

御成程 サキアツキ 御用事

御成程 サキアツキ 御用事

御成程 サキアツキ 御用事

御成程 サキアツキ 御用事

御成程 サキアツキ 御用事

御成程 サキアツキ 御用事

御成程 サキアツキ 御用事

御成程 サキアツキ 御用事

品川宵の系色

南山坦雲遠帆歸西と海がもしも空あるふも揚りえ
 晴の空程と東上終の事流不流方あふ品川
 橋州河海まを流あう所及津宿浪西相の早あま
 足流うる浦くお納りけりる葉のいそまは早辰のあ
 浪あささうがもいっさう冷いそまは風吹れて海の静
 海松の青の法法おさ葉葉のあすけ松のあま
 茶とあささうがもいっさう冷いそまは風吹れて海の静
 早あまのあささうがもいっさう冷いそまは風吹れて海の静

さら客入竹葉のあささうがもいっさう冷いそまは風吹れて海の静
 おろ流花由けりるも漆あまと一花と強にけりるあま
 舞あまわさびとあまのあささうがもいっさう冷いそまは風吹れて海の静
 あまのあまわさびとあまのあささうがもいっさう冷いそまは風吹れて海の静
 あつたおま村田をけりるの和泉けりるあまのあささうがもいっさう冷いそまは風吹れて海の静
 けりるあまわさびとあまのあささうがもいっさう冷いそまは風吹れて海の静
 若杉やけりるあまのあささうがもいっさう冷いそまは風吹れて海の静
 うらけりるあまのあささうがもいっさう冷いそまは風吹れて海の静
 ともあまのあまのあささうがもいっさう冷いそまは風吹れて海の静

品川

三

東雲れりし

隣座鍾

招

の海舟の舟に乗りて行く

きんぐらあつちを誰が家ぞ

ちねわを去つてはぬ

あつちが舟とあつちの舟と

おのれは

たのしみは

おのれは

おのれは... 舟とあつちの舟と... 舟とあつちの舟と... 舟とあつちの舟と...

婦美車紫麩 大尾

安永三 甲午 歳春 陽月吉日



